

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	16-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and breast cancer risk by estrogen receptor status: in a pooled analysis of 20 studies. アルコール摂取とエストロゲン受容体の有無別の乳がんリスク：20 研究のプール解析より		
執筆者		
Jung S, Wang M, Anderson K, Baglietto L, Bergkvist L, Bernstein L, van den Brandt PA, Brinton L, Buring JE, Eliassen AH, Falk R, Gapstur SM, Giles GG, Goodman G, Hoffman-Bolton J, Horn-Ross PL, Inoue M, Kolonel LN, Krogh V, Lof M, Maas P, Miller AB, et al.		
掲載誌		
Int J Epidemiol. 2016 Jun;45(3):916-28. doi: 10.1093/ije/dyv156.		
キーワード	PMID	
アルコール、乳がん、コホート研究、疫学、エストロゲン受容体、葉酸、プール解析、プロゲステロン受容体	26320033	
要 旨		
目的： エストロゲン受容体(ER)の有(+) 無(-)別の乳がんリスクと、アルコールおよび葉酸摂取の関連について 20 のコホート研究の主要データを用いたプール解析で検討した。		
方法： 20 コホートの追跡期間は 6~18 年で、対象者は女性 1,089,273 人、このうち 37,191 人が乳がん と診断され、ER+は 21,624 人、ER-は 5,113 人であった。Cox 比例ハザード回帰モデルにて研究ごとの多変量調整相対リスクを算出し、その後ランダム効果モデルで統合解析をおこなった。		
結果： アルコール摂取は、ER(+) および ER(-)の乳がんリスクと正の関連があった。非飲酒者を対照としたとき、1 日 30g 以上アルコールを摂取する者の乳がん発症の多変量調整統合リスク (95%信頼区間) は、ホルモン受容体有無別に、ER(+) 1.35 (1.23-1.48)、ER(-) 1.28(1.10-1.49)であり、ER の有無に関わらず飲酒量の増加に伴いリスクが上昇した (傾向性 P<0.001)。また、1 日 30g 以上のアルコール摂取者においては ER の有無による乳がん発症リスクに差はなかった (p=0.57)。アルコール摂取と葉酸摂取量(食品とサプリメントの合計)に交互作用は認めなかった(P≥0.26)。食品から、もしくは食品およびサプリメントからの葉酸摂取は、ホルモン受容体の有無に関わらず、乳がん発症リスクと関連していなかった。		
結論： アルコール摂取は、ER(+) 、ER(-)のいずれにおいても乳がん発症リスクと正の関連があったが、葉酸摂取は関連していなかった。		